

とそれぞれ前月を若干上回ったが、好調時に比べれば引き続き低水準(47年10月～48年1月平均、設定額737億円、元本純増額489億円)。これは、株価変動を映じて個人の応募意欲がオープン型中心に低下してきていることから、証券各社の設定態度は慎重なため。解約はこの間引き続き落ち着いた動きを示している。

次に運用面をみると、国内株については年初来4ヵ月連続して売り越し(合計909億円)だったが、株価水準がかなり下押ししたこと、かたがた株式組入比率も大幅に低下したこと(47年末59.4%→48年5月末46.9%)から売り一服となり、一部には値がき優良株、消費関連株など銘柄を選別しつつ買い入れる向きもみられたため、5ヵ月ぶりに小幅ながら買越し(17億円)に転じた。一方外国株については、ニューヨーク株価不ざえなどから4ヵ月連続の売越し(月中49億円)となった。

5月の公社債投信をみると、月中元本純増額は99億円と前月(80億円)を上回った。これは公社債レートの上昇、累積投資による応募増などから、一部で設定をやや積極化したことによるもの。

## 実体経済の動向

### ◇出荷の増勢強まる

(生産——5月は再びかなりの増加)

5月の鉱工業生産(速報、季節調整済み、前月比)は、前月減少(−0.8%)のあと+2.7%と再びかなりの増加を示し、原計数の前年同月比でも+19.7%と42年11月(+19.7%)以来の大幅増加となった。また3ヵ月移動平均値(季節調整済み)の前月比でも3月(+1.0%)、4月(+1.9%)と引き続き増加を示している。

5月の動きを特殊分類別にみると、一般資本財(+5.8%、圧延機械、非標準三相誘導電動機、トラクター等)が、前月減少(−3.9%)のあと大型機械完工の集中もあって大幅増となったほか、建設資材(+3.5%、石綿スレート、スチールドア、アルミサッシ等)、生産財(+2.0%、汎用内燃機関、変速機、複合肥料等)、非耐久消費財(+1.7%、軽金属板製品、自動車タイヤチューブ等)が引き続き増加、また資本財輸送機械(乗用車<1,500cc超>、中型トラック等)も前月減少(−2.7

### 鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(−)率・%)

	47年				48年		
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	3月	4月	5月
鉱工業指数	107.7	110.8	116.1	123.8	127.0	126.0	129.4
前期(月)比	2.2	2.9	4.8	6.7	3.8	−0.8	2.7
前年同期(月)比	6.3	7.2	12.3	17.5	18.5	18.4	19.7
投資財	1.7	4.8	5.9	10.2	7.3	−2.3	4.8
資本財	1.6	4.6	6.3	12.2	9.7	−3.0	4.4
同(輸送機械を除く)	1.0	7.0	5.4	13.7	15.8	−3.9	5.8
輸送機械	2.3	0.4	8.8	8.7	−0.4	−2.7	—
建設資材	2.3	4.9	5.6	5.6	1.5	0.5	3.5
消費財	2.7	0.9	2.9	2.6	0.3	1.2	0.9
耐久消費財	1.2	1.0	2.9	4.6	1.2	−0.5	0.2
非耐久消費財	2.7	1.0	2.9	2.0	1.0	0.2	1.7
生産財	2.4	2.5	5.1	6.4	2.8	−0.2	2.0

(注) 1. 通産省調べ、48年5月は速報。

2. 前年同期(月)比は原指数による。

%)のあと小幅ながら増加に転じたが、一方耐久消費財(+0.2%)は家電製品(エアコンディショナ<ウインド型>、カラーテレビ、電気冷蔵庫等)の減少を映じて伸び悩みとなっている。

#### (出荷——増勢強まる)

5月の鉱工業出荷(速報、季節調整済み、前月比)は+3.7%と増勢を強め、原計数の前年同月比でも+20.3%と42年1月(+20.5%)以来の大幅増加となった。特殊分類別にみると、資本財輸送機械(乗用車<1,500cc超>、中型・軽四輪トラック等)が大幅増となったのをはじめ、建設資材(+4.6%、普通鋼熱間鋼管、石綿スレート等)、一般資本財(+3.7%、トラクター、ショベル系掘削機、鋼索等)、生産財(+2.7%、汎用内燃機関、尿素、硫酸等)もかなり増加したが、非耐久消費財(+0.4%)、耐久消費財(+1.4%)は家電製品(エアコンディショナ、電気冷蔵庫等)、繊維品(メリヤス外衣・下着、タオル生地等)等の減少が響いて伸び鈍化となった。

#### 鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(一)率・%)

	47年				48年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
鉱工業指数	109.4	112.6	118.1	126.0	126.6	127.8	132.5
前期(月)比	1.7	2.9	4.9	6.7	-0.2	0.9	3.7
前年同期(月)比	7.0	8.4	13.3	17.1	16.4	18.8	20.3
投資財	0.4	5.5	5.0	9.5	0.0	0.9	7.7
資本財	-1.0	6.3	4.0	11.4	0.3	0.2	9.6
同(輸送機械を除く)	0.2	4.5	5.3	14.7	11.4	-0.7	3.7
輸送機械	-3.3	8.4	2.1	7.7	-14.8	1.4	—
建設資材	2.7	4.6	6.3	6.3	-1.1	1.5	4.6
消費財	2.0	0.3	4.2	4.0	-2.7	0	0.7
耐久消費財	1.6	0.2	5.2	2.6	-7.3	1.3	1.4
非耐久消費財	1.9	0.1	3.9	5.5	0.8	-1.1	0.4
生産財	2.5	2.9	5.2	5.8	1.7	1.3	2.7

- (注) 1. 通産省調べ、48年5月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

#### (製品在庫——5月は微増)

5月の生産者製品在庫(速報、季節調整済み、前月比)は、前記のような出荷の大幅増を映じて+0.1%と微増にとどまったが、原計数の前年同

月比でみると-3.7%と減少幅が若干縮小した。特殊分類別にみると、一般資本財(-0.2%、トラクター、ショベル系掘削機等)が引き続き減少し、資本財輸送機械(乗用車<1,500~2,000cc>、軽四輪トラック等)、建設資材(-0.8%、板ガラス、鉄筋コンクリート管)も減少に転じたが、非耐久消費財(+1.2%、メリヤス外衣・下着、家庭用合成洗剤等)、耐久消費財(+1.0%、乗用車<360~1,500cc>、ピアノ、エアコンディショナ等)、生産財(+0.3%、食かん、複合肥料、ナフサ等)は増加した。

この間、前記のとおり出荷の伸びが大きかったため、生産者製品在庫率指数(45年平均=100、速報、季節調整済み)は、86.4(前月比-3.1ポイント)と36年8月(83.5)以来の低水準となった。

#### 鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(一)率・%)

	47年(期別)			48年(期別)	48年(月別)		
	6月	9月	12月	3月	3月	4月	5月
鉱工業指数	118.1	119.2	115.2	113.0	113.0	114.4	114.5
前期(月)末比	-1.3	1.0	-3.4	-1.8	1.1	1.2	0.1
前年同期(月)末比	-0.1	-0.5	-4.9	-5.5	-5.5	-4.7	-3.7
製品在庫率指数	106.8	104.1	94.6	89.3	89.3	89.5	86.4
投資財	-3.3	-2.6	-4.4	-0.5	1.0	3.5	-1.7
資本財	-4.0	-3.3	-7.9	-0.6	0.6	2.7	-2.8
同(輸送機械を除く)	-3.6	-1.7	-6.0	-2.2	1.0	-1.1	-0.2
輸送機械	-6.5	-15.1	-13.8	7.4	-2.7	24.7	—
建設資材	-2.5	-1.7	0.6	-1.7	0.5	4.5	-0.8
消費財	-0.2	6.0	-2.0	-1.7	1.2	1.2	1.0
耐久消費財	1.8	3.9	-4.3	2.6	2.4	3.1	1.0
非耐久消費財	-1.2	7.7	-0.3	-5.3	0.0	1.4	1.2
生産財	-0.9	-1.2	-4.7	-2.5	0.6	-0.1	0.3

- (注) 1. 通産省調べ、48年5月は速報。  
2. 前年同期(月)比は原指数による。

#### (原材料在庫——4月も引き微増)

4月の原材料在庫(速報、季節調整済み、前月比)は+0.1%と小幅ながら増加を続け、原計数の前年同月比は-0.1%とほぼ昨年と同水準。前月に比べ小幅増加となったのは輸入分(+3.7%)が前月減少(-1.7%)のあと、素原材料(銅鉱、鉄くず、木材チップ等)を中心にかなり増加したため

で、国産分(−0.9%)は素原材料(パルプ材、原料油脂等)、製品原材料(普通鋼・特殊鋼鋼材、製紙パルプ、合繊織物、硫酸等)とも減少した。

この間、原材料消費は前月比+1.5%とかなりの増加となったため、原材料在庫率指数(45年平均=100、速報、季節調整済み)は95.2(前月比−1.4ポイント)と、これまでのボトム(45年1月=95.5)を下回った。

#### 製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	47年(期別)		48年(期別)	48年(月別)		
	9月	12月	3月	2月	3月	4月
在庫指数	119.4	118.1	119.0	118.8	119.0	119.1
前期(月)末比	2.1	−1.1	0.8	0.8	0.2	0.1
国産分	1.3	−4.2	0	0.4	0.6	−0.9
素原材料	−9.6	−11.1	0.2	3.4	1.8	−3.5
製品原材料	3.6	−1.9	−0.6	−0.5	0.5	−1.1
輸入分	4.3	13.2	3.3	2.4	1.7	3.7
素原材料	4.0	14.2	2.7	2.9	2.5	4.4
在庫率指数	109.8	99.7	96.6	98.5	96.6	95.2
国産分	110.5	97.0	93.3	94.7	93.3	91.3
素原材料	118.8	96.9	93.5	94.0	93.5	90.8
製品原材料	108.9	97.7	93.5	95.0	93.5	91.2
輸入分	105.6	111.7	110.1	115.0	110.1	109.4
素原材料	106.2	113.0	111.5	118.0	111.5	111.5

(注) 通産省調べ、48年4月は速報。

#### (販売業者在庫——3ヵ月ぶりに減少)

3月の販売業者在庫(速報、季節調整済み、前月比)は、前2ヵ月増加(1月+1.1%、2月+2.5%)のあと−0.9%と3ヵ月ぶりに減少し、原計数の前年同月比でも+10.3%と前月(+12.3%)を若干下回った。品目別にみると、繊維原料(羊毛、合繊短繊維)、織物(人絹織物、綿紡物、絹・絹紡織物)、民生用電気機械(テープレコーダー、電気冷蔵庫等)等が引き続き増加したのに対し、糸、非鉄金属(銅合金の故およびくず等)、石油製品(灯油、軽油等)が減少を続け、紙、自動車、鋼材も減少に転じた。

#### (設備投資——増勢持続)

5月の一般資本財出荷(速報、季節調整済み、

#### 販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減(−)率・%)

	47年(期別)		48年(期別)	48年(月別)		
	9月	12月	3月	1月	2月	3月
総合指数	116.7	117.9	121.1	119.2	122.2	121.1
前期(月)末比	2.8	1.0	2.7	1.1	2.5	−0.9

(注) 通産省調べ、48年3月は速報。

前月比)は、前月減少(−0.7%)のあと+3.7%と再び増加に転じた。また3ヵ月移動平均の前月比でも4月は+4.6%と引き続き高い伸びを示している。5月の動きを品目別にみると、トラクター、ショベル系掘削機、鋼索、銅電線ケーブル等の伸びが目だつ。

5月の機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み、前月比)は、+3.4%と前月(+13.8%)に続き増加した。非製造業(船舶を除く)からの受注は電力、運輸の一服から反動減(−2.9%)となったが、製造業からの受注は、鉄鋼、自動車の反動減にもかかわらず化学、繊維、石油が著増したため、引き続き増加した。

#### 需要先別機械受注の推移

(季節調整済み月平均、単位・億円)

	47年		48年	48年		
	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
民需	2,038 (5.9)	2,322 (13.9)	2,782 (19.8)	2,548 (−25.0)	2,846 (11.7)	2,834 (−0.4)
同(船舶を除く)	1,851 (5.0)	2,241 (21.1)	2,503 (11.7)	2,337 (−11.7)	2,658 (13.8)	2,749 (3.4)
製造業	973 (22.0)	1,181 (21.3)	1,436 (21.6)	1,272 (−12.8)	1,479 (16.2)	1,587 (7.4)
非製造業	1,062 (−6.0)	1,155 (8.8)	1,362 (17.9)	1,326 (−26.5)	1,352 (2.0)	1,222 (−9.7)
同(船舶を除く)	894 (−9.3)	1,073 (20.0)	1,065 (−0.7)	1,066 (−6.9)	1,200 (12.6)	1,166 (−2.9)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

5月の建設工事受注額(民間産業分、速報、季節調整済み、前月比)は、+9.9%と前月(+11.3%)に引き続き増加し、原計数の前年同月比でも+49.5%と高水準の伸びを持続した。このような受注好調の反面、施工が労務者不足等もあって依然として進捗難をみているため、このところ建設

業者側での受注選別姿勢が一段と強まっているようにうかがわれる。

#### ◇商品市況は全般に騰勢を持続

6月の商品市況をみると、外材、原糸の一部(生糸)等に軟化がみられたが、鉄鋼、非鉄、合成繊維等の主力製品が統騰したほか、化学製品、紙等も強含みを続けるなど、全般に騰勢を持続した。

商品の一部には、季節的な需要一服(灯油、セメント)や供給増(石油製品、セメント)からひところの極端な需給ひっ迫状態がいくぶん是正されたものもみられたが、個人消費の増勢持続、設備投資の本格化、輸出の増勢回復傾向などにより最終需要の増勢が一段と高まっているうえ、流通段階でも繊維品の一部、木材を除き在庫手当て意欲が依然強い一方、供給面では、原料面でのあい路(エチレン、紙、くず鉄)、人手不足(機械類等)、下請け部品調達難(電機、自動車等)、公害問題による増設難(化学製品、非鉄、紙等)などの事情もみられるため、需給は引き締まり基調を続けている。

こうした情勢のもとに、メーカー・サイドでは、今次春闘の大幅ベア、原材料価格、部品等下請け工賃の上昇などのコスト・アップ分を製品価格引上げによって吸収しようとする動きが目だっており、このところ、かなり多くの業種にわたり、次々とメーカーが販売価格引上げの方針を打ち出し、これが市中の市況先高感を拍車している点が注目される。このようなメーカーの仕ぶり積極化の背景には、当面の需給ひっ迫状況もあるものの、先行きについても、①内需の堅調は早急に落ち込むとはみられず、輸出は今後伸長が予想されるうえ、流通段階でも、ここしばらくは在庫増しの方向に進むとみられること、②財政支出の下期繰延べの影響についても、当面は民需の増勢でカバーしうるほか、年度越し繰延べが行われないうえ、③一方、供給面では、前述のような生産力拡大を妨げる問題の早期解決は困難とみられるため、現在の需給基調は容易に変わるまいとみて

いること、④最近の好採算輸出引合いの活発化(鉄鋼、合繊、化学製品等)が国内価格の相対的割安感を生んでいること、などがあると思われる。

鉄鋼……6月の鋼材市況をみると、小形棒鋼、山形鋼が大幅に上伸したほか、厚板、薄板も統騰、H形鋼、鋼管も強含むなど総じて大幅な騰勢を示した。

このように市況が大幅な騰勢となったのは、①民間設備投資の盛り上がり(工場建設、重電、産業機械)、②個人消費の堅調(自動車、弱電)、③輸出の増大(造船)、など最終需要の増勢を背景にユーザーが活発な鋼材手当てを続けているうえ、輸出船積みも増加している反面、供給面では4月後半から5月にかけての緊急増産分が市中に出回ってきたものの、上記のような高水準の需要拡大に追いつかず、市中の品薄傾向がさらに一段と強まったためである。このほか最近では、塩ビ管、小形棒鋼の品不足から鋼管への代替需要が強まっているとか、ブロック工法の普及などから梅雨入りにもかかわらず、建設関連の需要が衰えないといった事情も見のがせない。

繊維……生糸が織物在庫の荷余り感から月後半かなりの反落をみたものの、その他の原糸類は、綿糸が月後半急騰、合繊、スフ糸、そ毛糸も上伸するなど総じてみれば強基調を持続した。このような強基調の背景をみると、合繊、スフ糸等は根強い実需の拡大に支えられているとみられるが、綿糸については原綿高や紡績の供給余力の低下をながめての先高期待感による面もある模様である。

非鉄金属……銅、亜鉛、鉛がいずれも急騰したほか、アルミニウムもここへきて強含みとなった。これは、①欧米諸国の実需が根強い増勢を示していること、供給面でチリ銅山のストライキが続く、米国の電力不足による大幅生産減(アルミ)もみられたことなどから国際相場が急騰をみているうえ、②国内でも、需給が依然ひっ迫が続いているところへ、下旬公害問題発生にからんで一部大手山元が操業停止を余儀なくされたこと(銅、

鉛)から、出荷先細りを懸念したユーザー筋が買い急ぎの姿勢をみせたこと、なども響いている。

石油製品……精製メーカーの増産が軌道に乗ってきたことから、さすがにひとところのような品不足はみられなくなったが、季節的な需要減退から灯油が若干軟化気配を示したほか、国内景気の上昇を映じて依然需要がおう盛で市況は総じて強含みに推移した。とくに、軽油については、これまでの安値訂正を理由にメーカー出し値が引き上げられた。

もっとも、これとは別に原油価格引上げに絡んで、メーカー側で希望していた中間留分(灯油、軽油、A重油)の値上げ(7月1日から+7~8%)は、物価上昇のおりから、行政指導により当面見送られることになった。

セメント……セメント需給は梅雨時不需用期入

りに加え、公共投資の下期繰延べの影響から、官公需関連の出荷が細りぎみとなっていることもあってひとところに比べてやや引き緩みをみており、メーカー在庫は先行きに備えてかなりの積み上がりとなり、5月まで騰勢を続けてきた市況も強保合いで推移。

もっとも、需要の基調は民間設備投資関連の本格化から依然根強く、一方、供給面でも、公害規制に絡んだ工場立地難、原料石灰石の手当て難などから、需要の増勢を大幅に超える供給増は困難とあって、梅雨明け後少なくとも年内いっぱいくらいはかなりの需給ひっ迫が予想されている。

木材……内地材は、原木不足を背景とした産地製材業者が先高期待から売り腰を強めたものの、末端需要の盛り上がり不足から問屋が当用買いに徹しているため商いは閑散、つれて市況も保合

### 卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	前年度比上昇率		最近の推移(前月(旬)比上昇率)							
		46年度 平 均	47年度 平 均	48 年			48 年 5 月			6 月	
				3 月	4 月	5 月	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬
総 平 均	100.0	- 0.8	3.2	1.9	0.5	0.9	0.5	0.1	0.5	0.5	0.3
食 料 品	13.4	3.6	2.9	1.4	0	0.6	0.4	- 0.2	1.0	0.6	0.3
非食料農林産物	2.4	- 4.7	16.2	0.1	- 6.6	0.8	1.1	0.6	1.0	0.7	1.5
繊 維 製 品	7.8	- 3.4	9.7	11.4	- 1.5	1.0	1.2	- 0.4	1.1	1.3	0.4
製 材・木 製 品	3.8	- 2.7	26.3	- 0.4	- 4.5	- 1.3	0.1	- 0.3	- 1.0	- 0.7	- 0.8
パルプ・紙・同製品	2.8	- 2.4	3.2	5.4	2.3	1.4	0.2	0	0.2	0.4	0
金 属 素 材	1.9	- 14.9	- 3.3	- 1.1	3.7	4.0	1.4	1.3	1.0	- 0.3	0.7
鉄 鋼	9.4	- 5.3	5.2	- 0.2	0.3	0.9	0.3	0.5	0.4	0.5	0.7
非 鉄 金 属	4.2	- 10.8	- 2.5	4.5	2.9	1.8	1.7	- 0.5	0.5	3.2	2.7
金 属 製 品	3.8	- 0.3	0.8	1.7	1.7	0.7	0.1	0.2	0.7	0.5	0.1
電 気 機 器	9.0	- 2.9	- 1.7	- 0.1	0.7	0.5	0.3	0	0.3	0.2	0
輸 送 用 機 器	6.8	0.2	0.4	0	0.2	0.1	0	0.2	0	- 0.1	0.1
一 般・精密機器	10.8	0.5	1.4	1.3	3.1	1.2	0.4	0	1.0	0.4	0.3
化 学 製 品	8.8	- 0.6	0.7	0.9	2.0	1.2	0.6	0.2	0.3	0.3	0.1
石油・石炭・同製品	4.6	10.3	- 1.4	- 1.2	1.2	1.9	0.7	0.6	0.7	0.2	0.1
窯 業 製 品	3.1	1.2	1.6	1.3	3.7	3.4	1.3	0	0.8	0.3	0
雑 品 目	7.6	2.2	4.0	2.7	1.1	0.4	0.3	0.1	0.3	0.3	0.2
工 業 製 品	85.5	- 1.1	3.1	2.1	0.7	0.9	0.5	0.1	0.5	0.5	0.3
大企業性製品	63.3	- 1.4	1.2	1.4	1.1	0.9	0.5	0.2	0.4	0.6	0.4
中小企業性製品	20.1	0.3	9.4	4.1	- 0.2	0.9	0.5	- 0.2	0.6	0.3	- 0.1
非 工 業 製 品	14.5	0.8	4.6	0.9	- 0.6	0.9	0.5	0.1	0.9	0.5	0.6

(注) 日本銀行調べ。

い。

米材は、輸入元商社が対米輸入自主規制実施（7月1日から）を背景に売り腰を強めたが、これに対して問屋筋では、原木については年内いっぱい、製品についても2～3ヵ月は荷もたれ感が続くとの見方から、高値追従難の構えであり、かかる情勢から市況は保合い。

南洋材は、月初来続落した後下旬には下げ渋りに転じた。これは、主力需要先の合板が市況悪化に対処したメーカーの減産、一部製品の凍結から6月末にかけて下げ止まり、一部小反発を示したことを映じたものであるが、合板市況は先行き国内メーカーの新鋭設備稼働も予想されることから反発力に乏しく、加えて原木の貯木場在庫はほぼ満杯、既往買付け分の入着も先細りながら7月いっぱいくらいは続くとあって依然軟弱地合いを脱していない。

化学品……合成樹脂では、ポリエチレンが上昇したほか、塩ビ、ポリプロピレン、ポリスチレン等総じて強含みを続けた。これは、実需が内需のほか、このところ輸出の増加気配もあって引き続き増勢をたどっているのに対し、原料調達難から依然として生産が伸び悩みのため、需給がなおひっ迫基調を続けていることによる。

また、基礎薬品類も、硫酸、塩素、カセイソーダをはじめ引き続き強含みに推移した。肥料、鉄鋼向け（硫酸）、化繊、紙・パルプ向け（カセイソーダ）を中心に実需が好調を続けているうえ、ここへきて公害反対運動の激化に伴い一部工場で操業度が一段と低下していることによる。

紙……洋紙では、実需が引き続きおう盛であるうえ、末端のユーザー筋、問屋筋の秋需に備えた在庫補てん意欲も強いのに対し、供給面では、原料パルプ不足、公害規制の強化がネックとなって増産が思うにまかせず、さらに夏場は定期修理に伴い若干の減産も予想されていることから、品薄感 は依然強く、市況は総じて強含みに推移した。

こうした需給基調と原料パルプの再値上げから、月後半にかけてメーカーの販価引上げ意欲が

強まり、クラフト紙、上質紙等の値上げの動きも活発化しているが、このようなメーカーの仕ぶりが再び市中の先高感を拍車しているという面も見のがせない。一方、段ボール原紙、白板紙についても、需給の堅調を背景に、一部メーカーがジュート・ライナー、中芯原紙の出し値引上げに踏み切ったことも響き、市況は強含みとなった。

砂糖……一部メーカーが海外自由相場高から原糖手当てをしぼらざるを得なくなっているため、減産を余儀なくされているほか、メーカー各社の市況建直しに対する意欲が今までになく強く、総じて生産を抑制ぎみにしているため、需給地合いがやや好転したため上伸。

（卸売物価——騰勢強まる）

卸売物価は、5月に前月比+0.9%と大幅上昇したあと、6月に入っても月上旬に前旬比+0.5%、中旬同+0.3%と続騰、根強い内需の拡大、海外原

工業製品生産者物価指数の推移

（単位・%）

	ウェイト	前年度比 上昇率		最近の推移 (前月比上昇率)		
		46年 度平均	47年 度平均	48年		
				3月	4月	5月
総 平 均	100.0	-1.1	3.3	2.4	0.5	0.8
食 料 品	10.6	3.5	1.4	1.3	0.1	1.6
天 然 繊 維・化 繊	1.6	6.7	32.5	18.0	15.0	4.7
合 繊	1.5	15.6	6.7	2.3	2.8	1.1
繊・編 物 類	3.2	3.3	11.9	15.6	2.7	1.0
繊 維 2 次 製 品	3.1	1.4	5.4	4.2	6.0	1.7
製 材・木 製 品	4.9	2.1	27.6	0.3	3.7	-1.9
パルプ・紙・同製品	3.6	2.3	4.8	6.1	1.1	0.6
普 通 鋼 鋼 材	7.2	7.1	5.8	0	0.1	0.5
特殊鋼鋼材・その他	3.4	2.3	2.1	0.4	0.3	-0.3
非 鉄 金 属	4.6	9.2	2.8	6.0	1.9	0.9
金 属 製 品	5.0	0.9	0.9	1.3	1.3	0.9
電 気 機 器	11.0	2.7	2.3	0.3	0.7	0.6
輸 送 用 機 器	7.7	0.1	0.2	0.1	0	0.2
一 般・精 密 機 器	12.6	0.8	2.4	1.8	3.4	1.2
化 学 製 品	9.8	1.5	0.4	0.9	2.0	1.2
石 油・石 炭 製 品	3.2	8.8	0.5	1.0	1.1	1.0
窯 業 製 品	3.4	1.8	1.9	1.7	3.7	3.6
雑 品 目	3.7	0.3	4.2	5.3	0.4	0.2

（注）日本銀行調べ。

料高などに支えられ上昇基調を一段と強めている。

品目別にみると、製材・木製品が上旬、中旬とも続落したのを除きほぼ全面高となったが、なかでも上旬では繊維製品、非鉄金属、食料品、鉄鋼、中旬では非鉄金属、鉄鋼などの値上がりが目だっている。

#### (工業製品生産者物価——再び騰勢強まる)

5月の工業製品生産者物価は、前月比+0.8% (前月同+0.5%)と再び騰勢を強め、15ヵ月連続の上昇となった。品目別にみると、製材・木製品等一部を除いて軒並み上昇しており、なかでも天然繊維・化繊、繊維2次製品、窯業製品のほか、一般精密機器、化学製品等の高騰が目だっている。

#### (消費者物価——続騰)

6月の消費者物価(東京都部、速報)は、野菜、生鮮魚介等季節商品の値下がりが大きかったため、前月比+0.2%の小幅上昇にとどまったが、季節商品を除く総合では、住居、被服、雑費の上昇によって、前月比+1.1%と大幅な騰勢を持続した。また前年同月比では、総合+11.5%、季節商品を除く総合+11.1%と引き続き高い伸びとなった。

5月の全国消費者物価は、被服の高騰をはじめ、食料、住居等各項目とも軒並み上昇を続けたため、総合で前月比+1.7%と前月(同+1.9%)に引き続き大幅な上昇となった。この結果、前年同月比では+10.9%と10%台乗せし、調査開始(38年1月)以来のピークを前月に引き続き更新した。

#### 消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

			ウエ イト	前年度比 上 昇 率		最近の推移 (前月比上昇率)			最近の 前年 同月 比	
						48 年				
						4 月	5 月	6 月		
消 費 者 物 価	東 京 都	総 合 (季節商品を除く)	100.0 91.3	6.0 6.6	5.6 6.1	1.7 1.4	1.8 1.5	* 0.2 1.1	* 11.5 11.1	
		食 料	40.3	5.8	5.3	1.3	1.5	* -1.1	* 13.0	
		住 居	11.8	3.7	5.7	1.5	1.1	0.9	8.8	
		光 熱	3.7	1.3	6.4	1.3	0.1	-0.5	11.5	
		被 服	12.4	8.5	6.2	3.0	6.6	0.9	19.8	
		雑 費	31.8	6.7	5.6	1.5	0.7	1.8	7.5	
	分 類	特 殊	農 水 畜 産 物	16.6	1.6	3.1	1.8	3.3	...	15.6
		大 企 業 製 品	工 業 製 品	43.6	5.5	4.6	1.5	2.5	...	12.3
			うち	19.8	2.6	1.5	0.5	0.5	...	4.6
			中 小 企 業 製 品	23.8	7.9	6.8	2.2	4.0	...	17.9
			サ ー ビ ス	37.0	7.8	8.1	1.8	0.6	...	8.8
		全 国	総 合 (季節商品を除く)	100.0 91.0	5.7 6.2	5.2 5.5	1.9 1.6	1.7 1.3	...	10.9 10.3
	上 都 市 物 価		総 合 (季節商品を除く)	100.0 91.0	5.8 6.3	5.3 5.5	1.9 1.7	1.7 1.2	...	10.9 10.3
	輸 入 物 価	輸 入 交 易 条 件	—	— 0.4	— 1.6	1.4	1.3	...	4.8	
				— 1.4	0.1	— 0.7	2.5	...	14.1	
1.0				— 1.6	2.0	— 1.1	...	— 8.2		

(注) 1. 消費者物価は総理府統計局調べ、輸出入物価は日本銀行調べ。

2. \* 印は速報。

#### (輸出入物価——輸出物価は続騰、輸入物価は反騰)

5月の輸出物価は、金属・同製品的大幅上昇をはじめ、化学製品、一般・精密機器、雑品目等ほぼ全面高となったため、前月比+1.3%と引き続きかなりの上昇を示した(前月同+1.4%)。また5月の輸入物価は、木材・同製品が続落したものの、鉱物性燃料、繊維品、食料品、雑品目等いずれもかなりの上昇を示し、前月比+2.5%と大幅に反騰した(前月同-0.7%)。この結果、5月の交易条件指数(94.6、45年=100)は前月比-1.1%とやや悪化した。

#### ◇国際収支は5月も既往最高の赤字

5月の国際収支は、総合収支で1,185百万・ドルの赤字と既往最高であった前月(1,163

百万ドルの赤字)をさらに上回るものとなった。これで3か月連続10億ドル台の赤字を記録し、各月既往最高を更新したことになる。

これは、輸入の著増から貿易収支の黒字幅が大きく縮小したほか、長期資本収支が対外投資の高水準持続や外国借款の返済増高などから、また貿易外収支が運賃支払いの増加を中心にそれぞれ既往最高の赤字となり、さらに誤差脱漏項目もリーズ・アンド・ラグズの反転等から引き続き多額の流出超となったためである。

5月の貿易収支を季節調整後でみると、輸出は鉄鋼、自動車等が引き続き非米地域向けを中心に著伸したほか、輸出価格の上昇もあって前月比+2.1%の伸びを示したのに対し、輸入が国内生産の拡大や海外価格の高騰を映じて、原燃料、一般消費財を中心に前月比+9.3%と著増したため、

収支じりの黒字幅は275百万ドル(前月436百万ドル)と大幅に縮小した。

長期資本収支は、既往最高の974百万ドルの流出超となった(これまでの最高は47年12月の902百万ドルの流出超)。これは、本邦資本面で対外借款供与、直接投資ならびに証券投資等が引き続き増高したほか、外国資本面で対日投資株式の処分売りが多額に上り、さらにガリオア・エロア、余剰農産物借款の一括繰上げ返済が実行されたためである。

金融勘定では、外銀借入れやユーロ・マネー取入れの増加等から、為銀ポジションは前月とは様変わりになり268百万ドル悪化し、215百万ドルの負債超過(前月は53百万ドルの資産超過)に転じた。

この間、外貨準備高は月中965百万ドル減少し、月末残高は15,869百万ドルとなり、ピークであっ

## 国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	47 年		48 年	48 年			47年5月
	7～9月	10～12月	1～3月	3 月	4 月	5 月	
経 常 収 支	2,084	2,370	534	22	146	△ 300	177
貿 易 収 支	2,637	2,662	1,073	315	415	75	509
輸 出	7,389	8,175	7,417	2,937	2,764	2,775	2,079
輸 入	4,752	5,513	6,344	2,622	2,349	2,700	1,570
貿易外収支	△ 491	△ 255	△ 517	△ 281	△ 256	△ 322	△ 191
移 転 収 支	△ 62	△ 37	△ 22	△ 12	△ 13	△ 53	△ 141
長期資本収支	△ 1,158	△ 1,832	△ 2,203	△ 789	△ 713	△ 974	△ 250
本 邦 資 本	△ 1,420	△ 1,829	△ 2,003	△ 772	△ 614	△ 575	△ 300
外 国 資 本	262	△ 3	△ 200	△ 17	△ 99	△ 399	50
基礎的収支	926	538	△ 1,669	△ 767	△ 567	△ 1,274	△ 73
	( 503)	( 116)	(△ 979)	(△ 994)	(△ 546)	(△ 1,074)	( 91)
短期資本収支	434	909	1,231	525	146	451	△ 23
誤 差 脱 漏	178	362	△ 366	△ 849	△ 742	362	118
総 合 収 支	1,538	1,809	△ 804	△ 1,091	△ 1,163	△ 1,185	22
金 融 勘 定	1,538	1,809	△ 804	△ 1,091	△ 1,163	△ 1,185	22
外 貨 準 備 増 減	644	1,876	△ 240	△ 942	△ 1,291	△ 965	△ 501
そ の 他	894	△ 67	△ 564	△ 149	128	△ 220	523
外 貨 準 備 高	16,489	18,365	18,125	18,125	16,834	15,869	16,034
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	477	508	△ 169	△ 169	53	△ 215	△ 919

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。  
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。  
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。  
 4. 為銀対外ポジションの△印は負債超過残高。



た本年2月末残高(19,067百万ドル)に比べると3,198百万ドルの減少となった。

(輸出——引き続き高い伸び)

5月の輸出(国際収支ベース)は、季節調整後では前月著増(+10.4%)のあと、当月も+2.1%と引き続き増加、原計数の前年同月比でも+33.5%(前月同+24.8%)と高い伸びを示した。なお、通関ベースの邦貨表示額でも前年同月比+14.8%(前月同+7.7%)と高い伸びとなっている。

品目別(通関ベース)にみると、前月に引き続き二輪自動車、綿織物、衣類、雑貨等が不芳であるが、事務用機器、繊維機械を中心とする一般機械や船舶が高い伸びを示したほか、輸出価格の上昇もあって、鉄鋼、化学肥料、自動車等が非米地域向けに著伸した。

地域別にみると、米国向けは依然不振であるが、その他地域では西欧向けが自動車、弱電製品を中心に、また東南アジア、中近東、中南米、中国向けも鉄鋼、機械等を中心になんかの伸びを続けている。

対米向けについてみると、科学光学機器、事務用機器、合繊織物等が高い伸びを示したものの、主力の自動車、鉄鋼、二輪自動車が不振のため、

前年同月比は+9.4%にとどまった。なお、月中対米輸入が著増(同+68.1%)したことから、対米貿易収支じりは46年2月以来ほぼ2年ぶりに赤字に転じた。

先行指標である輸出信用状接受高(季節調整済み、前月比)は、5月に+6.6%と高い伸びを示したあと6月も+3.8%と好伸し、原計数の前年同月比でも+34.0%(前月同+27.3%)と高水準の伸びを続けている。

(輸入——前年同月比では既往最高の伸び)

5月の輸入(国際収支ベース)は、季節調整済みで前月減少(-3.4%)の反動もあって+9.3%と著増を示し、依然根強い増勢をたどっている。また原計数の前年同月比では+72.0%と既往最高の伸びを記録した(これまでの最高は48年3月の同+65.2%)。なお、通関ベースの邦貨表示額でも前年同月比+41.9%の著増(前月同+29.3%)。

品目別(通関ベース)でみると、砂糖、綿花は停滞ぎみであるが、その他の品目は国内需給の逼迫に伴う輸入量増大に加え、価格の高騰もあって軒並み高い伸びをみせた。とくに、輸入価格上昇の顕著な肉類、羊毛、木材、大豆が引き続き高い伸びとなっているほか、鉄鋼原材料、原油が増加

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸 出	輸 入
	輸 出	輸 入	貿 易 収 入	輸 出	輸 入	信用状	認 証	承 認
47年 7 ~ 9 月	2,373 (+ 8.8)	1,635 (+ 11.4)	738	2,416 (+ 9.1)	1,983 (+ 10.0)	1,913 (+ 9.8)	2,581 (+ 11.4)	2,031 (+ 11.8)
10 ~ 12 "	2,556 (+ 7.7)	1,809 (+ 10.6)	747	2,609 (+ 8.0)	2,242 (+ 13.0)	2,066 (+ 8.0)	2,813 (+ 9.0)	2,295 (+ 13.0)
48年 1 ~ 3 月	2,706 (+ 5.9)	2,118 (+ 17.1)	588	2,758 (+ 5.7)	2,448 (+ 9.2)	2,113 (+ 2.3)	2,761 (- 1.9)	2,894 (+ 26.1)
48年 2 月	3,027 (+ 19.0)	2,052 (+ 11.3)	975	3,075 (+ 17.6)	2,489 (+ 11.1)	2,129 (+ 5.4)	2,869 (+ 3.2)	2,992 (+ 27.3)
3 "	2,546 (- 15.9)	2,458 (+ 19.8)	88	2,584 (- 16.0)	2,615 (+ 5.1)	2,191 (+ 2.9)	2,633 (- 8.2)	3,338 (+ 11.6)
4 "	2,811 (+ 10.4)	2,375 (- 3.4)	436	2,902 (+ 12.3)	2,786 (+ 6.6)	2,120 (- 3.2)	2,898 (+ 10.1)	3,380 (+ 1.3)
5 "	2,871 (+ 2.1)	2,596 (+ 9.3)	275	2,950 (+ 1.6)	3,096 (+ 11.1)	2,260 (+ 6.6)	3,203 (+ 10.5)	3,470 (+ 2.7)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。  
2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。  
3. 季節調整はセンサス局法による。

傾向をたどっており、また一般消費財も、消費構造の多様化や高級化を映じて著伸。

6月の輸入承認額(季節調整済み、前月比)は、

### 通 関 輸 出 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	47 年		48年	48 年	
	7~9月	10~12月	1~3月	4 月	5 月
食 料 品	189 (- 3)	193 (+ 3)	161 (+ 16)	58 (+ 11)	58 (+ 34)
魚 介 類	143 (+ 41)	121 (+ 30)	88 (- 1)	33 (+ 7)	33 (+ 10)
繊維・同製品	772 (+ 8)	826 (+ 5)	666 (+ 10)	244 (+ 3)	264 (+ 10)
合 織 糸	91 (- 17)	109 (- 1)	93 (+ 16)	35 (+ 17)	35 (+ 13)
綿 織 物	62 (+ 22)	66 (+ 12)	42 (- 9)	15 (- 25)	15 (- 19)
合 織 織 物	214 (+ 14)	245 (+ 9)	197 (+ 20)	73 (+ 12)	79 (+ 29)
化 学 製 品	463 (+ 21)	513 (+ 31)	450 (+ 15)	166 (+ 15)	172 (+ 27)
非金属鉱物製品	128 (+ 25)	130 (+ 19)	111 (+ 7)	46 (+ 19)	48 (+ 22)
金 属 ・ 同 製 品	1,285 (+ 5)	1,453 (+ 19)	1,354 (+ 32)	492 (+ 34)	521 (+ 40)
鉄 鋼	952 (- 1)	1,070 (+ 15)	1,037 (+ 33)	372 (+ 40)	403 (+ 44)
機 械 機 器	4,000 (+ 29)	4,535 (+ 29)	4,196 (+ 24)	1,598 (+ 32)	1,527 (+ 42)
(船舶を除く)	3,360 (+ 28)	3,796 (+ 27)	3,389 (+ 21)	1,276 (+ 22)	1,331 (+ 36)
事務用機器	123 (+ 29)	155 (+ 37)	153 (+ 50)	55 (+ 52)	62 (+ 85)
テ レ ビ	157 (+ 3)	141 (+ 16)	137 (+ 11)	55 (+ 16)	49 (+ 8)
ラ ジ オ	293 (+ 32)	296 (+ 26)	239 (+ 21)	96 (+ 24)	102 (+ 31)
自 動 車	699 (+ 17)	856 (+ 10)	810 (+ 11)	286 (+ 12)	317 (+ 35)
二 輪 自 動 車	191 (+ 41)	218 (+ 10)	177 (- 18)	61 (- 22)	57 (- 20)
船 舶	640 (+ 36)	739 (+ 42)	807 (+ 38)	322 (+ 93)	196 (+ 93)
光 学 機 器	204 (+ 36)	221 (+ 33)	187 (+ 19)	73 (+ 18)	76 (+ 27)
テ ー プ レ コ ー ダ ー	177 (+ 29)	199 (+ 36)	158 (+ 24)	58 (+ 16)	72 (+ 41)
そ の 他	678 (+ 10)	706 (+ 21)	597 (+ 21)	209 (+ 5)	226 (+ 12)
合 計	7,515 (+ 19)	8,356 (+ 23)	7,562 (+ 23)	2,821 (+ 25)	2,818 (+ 33)
(船舶を除く)	6,876 (+ 17)	7,617 (+ 21)	6,742 (+ 21)	2,491 (+ 20)	2,622 (+ 30)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

### 通 関 輸 入 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	47 年		48年	48 年	
	7~9月	10~12月	1~3月	4 月	5 月
食 料 品	886 (+ 33)	1,037 (+ 21)	1,059 (+ 33)	410 (+ 46)	531 (+ 69)
肉 類	91 (+ 68)	122 (+ 51)	110 (+ 80)	64 (+ 181)	76 (+ 183)
魚 介 類	141 (+ 51)	169 (+ 6)	139 (+ 16)	68 (+ 71)	90 (+ 81)
小 麦	48 (+ 46)	108 (- 4)	133 (+ 83)	35 (+ 67)	66 (+ 61)
とうもろこし	65 (+ 11)	89 (+ 43)	104 (+ 68)	40 (+ 123)	38 (+ 78)
砂 糖	127 (+ 94)	106 (+ 54)	77 (- 21)	24 (- 46)	34 (+ 4)
原 燃 料	3,228 (+ 21)	3,674 (+ 30)	4,062 (+ 36)	1,547 (+ 46)	1,772 (+ 61)
羊 毛	120 (+ 76)	145 (+ 112)	221 (+ 152)	93 (+ 153)	108 (+ 161)
綿 花	125 (+ 9)	142 (+ 16)	195 (+ 15)	61 (- 5)	66 (+ 2)
鉄 鉱 石	326 (- 1)	363 (+ 10)	394 (+ 27)	108 (+ 9)	136 (+ 27)
鉄 鋼 く ず	27 (+ 1)	37 (+ 55)	73 (+ 233)	31 (+ 299)	34 (+ 361)
非鉄金属鉱	272 (+ 1)	290 (+ 26)	322 (+ 49)	144 (+ 99)	155 (+ 49)
大 豆	115 (+ 19)	129 (+ 5)	137 (+ 24)	66 (+ 29)	78 (+ 118)
木 材	430 (+ 41)	495 (+ 29)	655 (+ 80)	282 (+ 99)	325 (+ 117)
石 炭	282 (+ 15)	284 (+ 28)	284 (+ 14)	110 (+ 14)	127 (+ 21)
原 油	989 (+ 27)	1,142 (+ 38)	1,148 (+ 25)	411 (+ 29)	460 (+ 51)
化 学 製 品	299 (+ 31)	324 (+ 17)	352 (+ 32)	123 (+ 43)	139 (+ 50)
機 械 機 器	604 (+ 17)	657 (+ 11)	740 (+ 3)	251 (+ 30)	255 (+ 29)
航 空 機	61 (+ 13)	59 (- 9)	76 (+ 43)	10 (- 53)	6 (- 80)
そ の 他	853 (+ 45)	979 (+ 59)	1,078 (+ 83)	465 (+ 91)	521 (+ 109)
合 計	5,869 (+ 26)	6,671 (+ 29)	7,312 (+ 35)	2,803 (+ 51)	3,219 (+ 65)
工 業 用 原 料	3,912 (+ 25)	4,460 (+ 34)	5,010 (+ 41)	1,922 (+ 54)	2,182 (+ 66)
消 費 財	1,330 (+ 38)	1,543 (+ 26)	1,526 (+ 36)	626 (+ 52)	781 (+ 79)
一般消費財	301 (+ 72)	340 (+ 62)	337 (+ 53)	145 (+ 64)	163 (+ 107)
資 本 財	569 (+ 15)	604 (+ 9)	681 (- 1)	229 (+ 26)	233 (+ 24)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

---

前月微増(+2.7%)のあと、当月は+11.3%と高水準の伸びとなった。

5月の輸入素原材料在庫(季節調整済み、前月

比)は-5.7%の減少となり、加えて同消費が+2.4%と増加したため、在庫率指数(45年=100))は100.2と前月比8.7ポイントの大幅下落となった。